



熊日教養大学の開講式

さっそく“水俣病”学ぶ

第18回 熊日教養大学始まる

第十八回熊日教養大学は二十一日から本社四階ホールで開講した。この日午後六時から開講式が行なわれ、まず主催者を代表して伊豆熊日社長が「回を重ねることに受講者がふえ、みなさんの熱心さには頭が下がります。大学は真理を探究する場ですが、以前はソウゲの塔といわれ、許された者だけが学ぶところでした。今日の学

問は社会と密接なつながりをもつことが要求されるが、熊日教養大学は大学の社会進出ともいうべきものです。この企画には熊本大学から全面的な協力が寄せられ、今回も十人の権威ある講師を迎えることができました。社会人としての知識を広め、教養を高めてください」とあいさつ、熊大から野口理学部長が「教養大学もやがて十

年目です。年齢、職業もさまざまな方が受講されますが、みなさんの向学心には驚いています。私もみなさんにご満足のいく講義をしたいと思っています。今回は大きな社会問題となっている公害の問題を中心に考えていきたい」とあいさつした。

このあと「足尾銅山鉅害事件」と題して同大法文学部の森田誠一

教授、「先天異常、とくに先天性水俣病」と題して体研の原田義孝教授の講義が行なわれた。会場には公務員、男女会社員、主婦ら百三十余人が受講したが、この中には八十六歳の老人や、同大学の常連の顔が見え、いずれも熱心にメモしながら聴講していた。

なお、きょう二十二日は野村茂教授の「公害の衛生学」、真崎辰次教授の「食品衛生について」の講義がある。同大学は五日間にわたって開かれる。